

議 長	副議長	局 長	次 長	議事係長	議 事 係

厚生常任委員会会議 録			
日 時	平成 2 0 年 6 月 3 0 日 (月)	開 議	午前 1 1 時 0 0 分
		散 会	午前 1 1 時 0 3 分
場 所	第 2 委 員 会 室		
議 題	付 託 案 件		
出席委員	北野委員長、吹田副委員長、千葉・中島・井川・斎藤(博)・ 成田(晃) 各委員		
説明員	保健所長 ほか関係理事者		
<p>別紙のとおり、会議の概要を記録する。</p> <p>委員長</p> <p>署名員</p> <p>署名員</p> <p style="text-align: center;">書 記</p>			

～ 会議の概要 ～

委員長

ただいまより、本日の会議を開きます。

本日の会議録署名員に、井川委員、斎藤博行委員を御指名いたします。

付託案件を一括議題といたします。

この際、理事者より発言の申出がありますので、これを許します。

保健所長。

保健所長

去る 6 月 24 日の厚生常任委員会における、共産党中島委員の「保健所として血液検査による前立せんがん検診を実施してはどうか」との質問に対する保健所の答弁には説明不足があり、また、保健所のがん検診に係る基本的な見解について不適切な表現がありましたので、おわび申し上げますとともに、次に述べますとおり答弁を訂正いたします。

血液検査による前立せんがん検査について、厚生労働省では「直接的証拠として死亡率の減少効果が認められた報告は、現時点では存在しない」との見解を示し、当該検査の有用性に疑問を呈しております。

また、前立せんがんは、高齢者においては、進行が非常に遅いことが知られております。このことから、保健所といたしましては、前立せんがんの早期発見のためには泌尿器科等の専門機関において、診察を含めて、より専門的な検査を実施していただくことがふさわしいと考えており、当面、がん検診における血液検査による前立せんがんの検査の実施は考えておりません。

中島委員

一言申し上げます。

75歳で保険制度を独立させ、医療内容にも差別を持ち込む後期高齢者医療制度は、国民から厳しく批判を受け、野党 4 党が提案した廃止法案が参議院で可決されています。

「長生きは悪いのか」と高齢者の怒りが高まっているとき、高齢者のがんを見つけることがその人の幸せにつながらないと断言することは、高齢者のがん検診は必要なしということになり、予防・健康増進活動を任務とする保健所としては極めて不適切な答弁です。

我が党からの指摘を受けて訂正いたしました。今後このような事がないよう求めておきます。

委員長

本日はこれをもって散会いたします。